

鶴利用

有ければ喜びてとくす、めけり、

〔宣禁本草 坤諸禽〕鶴 甘平、小豆生姜同食能止泄痢、四月以前不堪食、猪同食生小黑子、菌同食發痔、蝦蟆化爲也、補五藏益中續氣實筋骨耐寒溫消結熱治小兒疳痢、

〔武家調味故實〕一うづらひばり可付様、但鶴は祝言の所へは不可出候、荻を二すぢゆひあはせて、ゆひめより下一尺ばかりより置て可付、式には鳥七付るよし有といへども、いくつにてもあれ付る時は、鳥をあふのけて、うちちかへく、荻にはさみて、あをつゝらにて可付、兩方のはがへをはさみ出して、かしらをはがへの下にかきはさむべしす、きにてもくるしからず、うすやうにしてする事あり、す、きもし、口傳あり、

〔雍州府志 土產〕鶴并藁雀 凡一切魚鳥水草清潔地其風味大勝、故洛邊所有、其風味與他鄉之所產爲異矣、鶴并藁雀其餘雜禽其形小者總稱小鳥、自秋至冬賣之、

〔食物和歌本草 四ウツラ〕鶴

鶴こそ五臟補ひ中をまし筋骨つよめ氣をもつけける○中 鶴には蝦墓變化して生ずれば疳病をとめて奇特也けり

〔古事記雄略〕天皇坐長谷之百枝櫻下、爲豐樂之時、○中 天皇歌曰、毛々志紀能、淤富美夜比登波宇豆良登理比禮登理加氣兵麻那婆志良袁由岐阿閉爾波須受米宇受須麻理韋氏祁布母加母佐加美豆久良斯多加比加流比能美夜比登許登能加多理墓登母許袁婆

〔伊勢物語 下〕むかし男ありけり、ふかくさにすみける女を、やう／＼あきがたにや思ひけん、ものへいてたちて、

年をへて住こし宿を出ていなばいと、深草野とや成なん、女かへし、  
野とならば鶴となりて鳴をらんかりにだにやは君はござらん、とよめりけるにいで、ゆか